

ON!

Old but New

だいまるゆう

伝統を残しながら、変わり続ける街大丸有

大手町・丸の内・有楽町の

街づくりを発信する情報誌

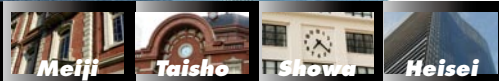


時空を旅する～大丸有オジ散歩～

2012 WINTER

027

東京駅と東京中央郵便局の不思議な関係



時空を旅する

大丸有地区は、日本を代表するビジネスセンターとして、明治、大正、昭和、平成と120年以上にわたって進化してきました。この間、各時代を象徴するビルが次々と建てられ、大丸有地区はまさに建築のワンダーランドといえます。そんな歴史ある街並みをビルウォッチングしながら散歩していくと、また新しい発見があるはずです。それではない、120年の時空を旅する大丸有オジ散歩に出かけましょう。

東京駅と東京中央郵便局の対比を確認するには新丸ビル7階・丸の内ハウスのテラスがベストポジション。ここから見ると、東京駅1階部分の白い水平の縞模様が赤い煉瓦に映えるのがはっきりとわかる。一方、右に目をやると上に行くほど小さくなっていく東京中央郵便局の窓を確認できる。この窓のつくりは、建物を大きくかつ安定感があるように見せる効果がある。また、東京中央郵便局の4階と5階の間に施された水平の胴蛇腹（どうじゃばら：コーニス）と東京駅の屋根とが一直線で繋がっている高さであることがわかる。



あれ、時計の高さもいっしょ!?



求したデザインはモダニズム建築の先駆者といえます。

当時鉄道と郵便は非常に密接な関係があり、そうしたことを意識したかどうかはわかりませんが、よく見ると東京駅と東京中央郵便局の時計はほぼ同じ高さに位置しています。また、煉瓦の赤に対するタイルの白、装飾性に優れた辰野式とシンプルな極みともいえるモダニズム建築…。これは推測ですが、こうした東京駅と東京中央郵便局の対比は、東京の玄関の「顔」として計算されてつくられたものではないかと思われます。おそらく吉田鉄郎は東京中央郵便局を設計するにあたり、東京帝国大学の大先輩である辰野金吾の精神が宿る東京駅が目の前にあることを強く意識し、それと対比できる造形を目指したのではないのでしょうか。

1914年（大正3年）に完成した東京駅は当初、ドイツ人の鉄道技師によって計画が進められ、煉瓦造りの上に瓦葺きの屋根を乗せるなど和洋折衷のデザインが考えられていました。しかし、日本を代表する建築家であり、英国でクイーンアン（ヴィクトリアン・ゴシック）の影響を受けた辰野金吾が手がけることにより、「辰野式」とでもいうべきオリジナルな様式の建物となりました。これにより、東京駅は様式美を追求した建築の代表的存在となりました。

一方、大丸有地区の建物は1918年（大正7年）に建てられた「東京海上ビルディング」以降は、装飾性を重んじるヨーロッパアンスタイルから、合理性に力点を置いたアメリカンスタイルへと変わっていきます。そして、次の時代の象徴ともいえるのが1931年（昭和6年）に完成した東京中央郵便局で、徹底して機能美を追



東京駅の表面は焼き色も均一の化粧煉瓦が使われており、「三菱一号館」創建当時に比べ煉瓦建築の完成度が高くなっていることを示している。一方、対比的なデザインでありながら、東京中央郵便局の一枚のタイルの高さは東京駅の煉瓦と同じという共通点もある。

様式美を誇る東京駅と、機能美を追求した東京中央郵便局。それぞれの時代の建築様式を象徴してるね。

案内人
野村和宣
（三菱地所設計）





建物はどっち向き～大丸有東西南北物語～



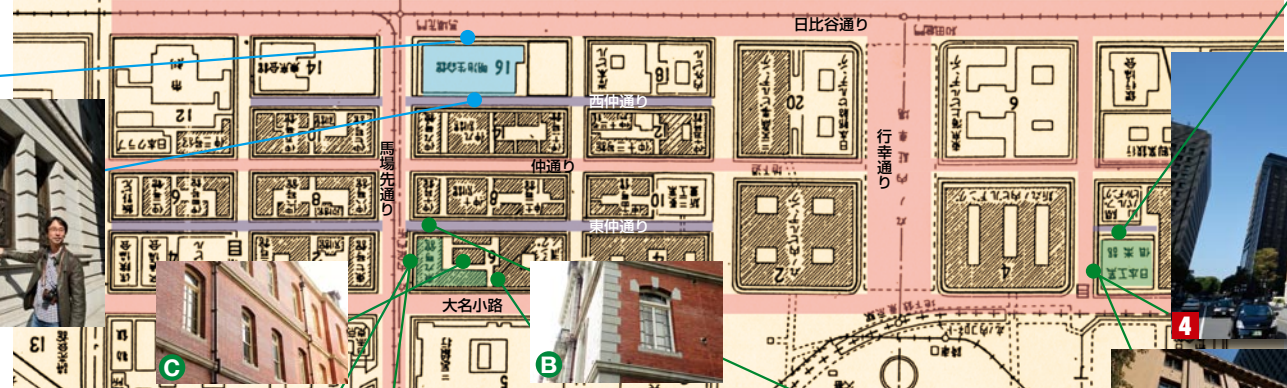
明治生命館

古典主義様式の最高傑作として高く評価されており重要文化財に指定されている明治生命館。西仲通りに面している部分の窓飾りも正面の日比谷通り側に負けないほど凝っている。



地図は1959年(昭和34年)のもので、東・西仲通りがあるのがわかる。

その時代にどこが街のメインストリートだったのか。通りのヒエラルキーという視点で建物を見ると、また新しい発見があります。大丸有地区はかつて大名の上屋敷があったところで、江戸城に通じる道を中心に街がつくられていました。明治20年代後半になってこの街に続々と煉瓦造りの建物がつくられ、「一丁倫敦」といわれるようになってからもそれは変わらず、皇居に伸びる東西の道がメインストリートとして機能していました。そのため、日本最初の近代オフィスビルとして1894年(明治27年)に建てられた「三菱一号館」の正面玄関も東西に伸びる馬場先通りに面しています。改めて「三菱一号館」の馬場先通り側の入口をみると、さまざまな彫刻を施した玄関石や窓枠で飾られているのがわかります(A)。



三菱一号館

英国人建築家ジョサイア・コンドルによって設計された三菱一号館。西側は東仲通りに面していた(D)。



日本工業倶楽部会館

1920年(大正9年)に竣工した日本工業倶楽部会館。保存・再現されているのは会館の南側部分で、正面玄関前の通りは和田倉門に通じている。

南北の道と東西の道、どっちがこの街のメインストリート？



なくなった建物たちの遺構



この街がビジネスセンターとして産声をあげたのは、いまから約120年前のことです。その後、街の変遷と共に多くのビルが建てられたり、建て替えられたりしてきました。明治から現代に至るまでに建てられた、大丸有地区に現存するビルを見て歩くのも楽しいものですが、一方で、いまはなき建物の遺構を探して歩くのもまた面白い。たとえば、東京中央郵便局の斜め向かいにあった丸の内八重洲ビルは尖塔と1階の石積が味のある建物として有名で、とくに正面のアーチ型の門はりっぱでした。その面影をいま、丸の内パークビル的大名小路側の入口に見ることができます。



また、三菱東京UFJ銀行本店ビルの前庭には、同敷地内に1923年(大正12年)に竣工した旧三菱銀行本店のオーダーの柱頭の飾り部分がオブジェのように置かれています。同様に、郵船ビルディングの角には、1923年(大正12年)に竣工した旧郵船ビルディングの装飾が日比谷通りと行幸通りが交差する角にさりげなく置かれています。



船ビルディングの角には、1923年(大正12年)に竣工した旧郵船ビルディングの装飾が日比谷通りと行幸通りが交差する角にさりげなく置かれています。

通りのヒエラルキーで建物を見るとまた、新しい発見があるよ。

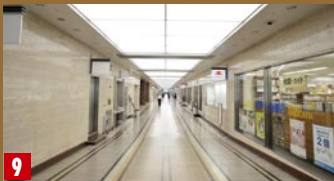


ディテールに目を向けるとその時代が見えてくる



大手町ビルディング (1958 年竣工) 長い長い、長ーい廊下

竣工当時は東洋一のビルと話題を呼び、その長さ約 203 m は圧巻。「1 階の廊下の端に立つと向こう側が地平線のように丸く見える」ともいわれた。縦長の敷地形状から、従来のビルに見られた中庭からの採光が必要なく、エレベーターなどを建物の中央部に集める形態が採られた。また、日本で初めて全館冷房を採用したビルでもある。この縦長の建物はテナントを誘致しやすく、現在でも数多くの店が一大飲食店街を築いている。



9

新東京ビルディング (1963 年竣工) ビルの中に バルコニーや十字路！

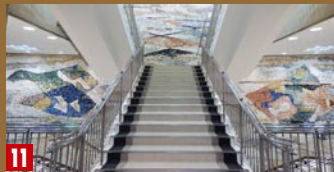
旧丸ビル・新丸ビルなき後、丸の内の戦後のビルのオーソドックスなタイプといえる。来訪者を 2 階へと誘導するためにつくられた吹抜とバルコニー。また、ビルの内外を自由に通り抜けられる十字路、豪華な大理石の壁面、格調高い現場仕上げのテラゾ床の贅沢な真鍮目地など、古きよき時代のビルスタイルの見所が満載されている。



10

東京交通会館 (1965 年竣工) 現代洋画家が遺した モザイク壁画

当時の代表的な現代洋画家であり、大手石材商「矢橋大理石商店」の代表取締役でもあった矢橋六郎氏が制作したモザイク壁画「緑の散歩」が、現在でも中央階段の 2・3 階の壁面に見ることができる。エレベーターではなく、まだ階段が上下移動の主役だった頃、その吹抜空間がビルの大きな見せ場のひとつであった。色とりどりの石による鮮やかなモザイク壁画は、半世紀近く経った現在でも、まったく色褪せることなく、私たちの目を楽しませてくれる。氏のモザイク壁画は、他に日比谷日生ビル、自民党本部、岐阜県庁などにも現存している。



11

国際ビルディング・帝劇ビル (1966 年竣工) 外観は 1 つで中身は 2 つ?!

オフィスビルと劇場という機能的にも構造的にもまったく異質な空間を、ひとつの建物にまとめた一体型複合ビル。各棟の設計は別々の設計者が互いに連携して行い、2 棟のビルを一つの建造物にまとめるという、難易度の高い作業であった。舞台の奈落を造る構造上、地下は 6 階までである。外見からは分からないが、国際ビルディングと帝劇ビルを結ぶ地下 1・2 階の階段にちょっとした段差があるのが別ビルである痕跡。

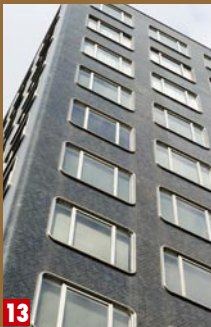


12



新有楽町ビルディング (1967 年竣工) ちょっと違う、角丸の窓

東京オリンピックも終わり、高度成長時代の真只中にあった大丸有周辺のビルの窓は、四角くつながった「横連窓形」のデザインが多かった。しかしこのビルは、角を丸くして、枠をステンレスで囲った窓、そして壁は青いタイルで覆うという意欲的なデザインで他のビルとは一線を画している。その完成度は高く、平成の世になった現在でも異彩を放っている。この角丸窓のデザインはこの地区だけでなく、他の街でもみつけることができる。



13

建築ウォッチングの

密かな楽しみ

味のある手書きのサイン。郵便物を各階からおとせる便利なポスト。祝日の前夜に玄関に置かれた国旗・・・。丸の内では、雑誌やテレビでは知らなかった、歴史と伝統を感じ

る楽しみをたくさんみつけました。なかでも強くひかれたのが、古河ビルディングです。古河ビルは外からみると 9 階建てなのですが、以前からそこに建っていた 7 階建ての建物がすっぽり中におさまっていたのです！ 階の高さも違うため、同じ階でありながら段差があり、調べてみたら、最上階ではなんと 9 段もの段差がありました。この古河ビルとの出会いが、私が建物に秘められた歴史をひもとき、その奥深さに思いをはせる、大きなきっかけとなりました。

このほか、大丸有地区のビルには、高級感ある壁や階段、重厚感ある黒い柱など、見どころがたくさんあります。とりわけ、外から楽しめる黒い柱は圧巻です。大手町で近年完

成した建物でも見

つけました。専門知識のない私ですが、素人だから楽しめることもあります。建物を愛称で呼んでいると、友達みたいになってきます。彼らの魅力をもっとみつけたいと思っています。

大丸有地区に勤務していた秋葉 OL さんは、大丸有地区を中心にしたビルウォッチングを独特の感性でブログに綴っています。

秋葉 OL の楽しみ探し〜ビルディング研究* etc. ~
<http://asabo.exblog.jp/>

*古河ビルは、現在の丸の内パークビルの敷地にあったビルで、現存しません。

大手町フィナンシャルシティが竣工

大手町連鎖型都市再生プロジェクトの第2次事業である「大手町フィナンシャルシティ」が10月に竣工しました。これは、独立行政法人都市再生機構を代表施行者、NTT都市開発株式会社、三菱地所株式会社、東京建物株式会社および株式会社サンケイビルの4社を特定建設者として、「ノースタワー」と「サウスタワー」の2棟から構成されています。

ノースタワーには日本政策金融公庫が本社機能を移転し、賃貸オフィスのほか、店舗等もテナントとして入ります。また、サウスタワーには日本政策投資銀行が本社機能を移転し、賃貸オフィスのほか、大手町の国際金融機能の強化に向けた業務支援施設として英語対応可能な「聖路加国際病院附属クリニック 聖路加メディローカス」が開業。さらに、高度な金融ノウハウを習得するための金融人材育成拠点「東京金融ブレッジ」や、高度なセキュリティや耐震性を備えたサーバー設置施設「IDC（インターネットデータセンター）」が整備されます。

商業施設としては、地下1階および1階に飲食店舗を中心に大手町エリアの事業者の日常生活を豊かにする27店舗（2棟合計）が店出するほか、北側外構に最新の環境情報の発信等を行う「エコミュージアム」が設置されます。

■大手町フィナンシャルシティ

敷地面積：約14,100㎡

延床面積：約242,500㎡

建物規模：ノースタワー・地下4階地上31階

サウスタワー・地下4階地上34階



東京ミチテラス 2012 開催

東京駅丸の内駅舎の復元工事完成を契機に、さらに脚光を浴びる大丸有地区ですが、6年にわたって展開されてきた光都東京・LIGHTOPIAに代わり、今年から新しい光の世界を提供する「東京ミチテラス」が始まります。「東京ミチテラス」には、“道を照らす”“未知を照らす”といった意味が込められており、「歴史・未来・希望」をテーマにした光の祝典です。東京駅前広場ではプロジェクションマッピングを利用して、未来への希望を繋ぐ躍動感あふれるライティングショーが展開されます。また、行幸通り



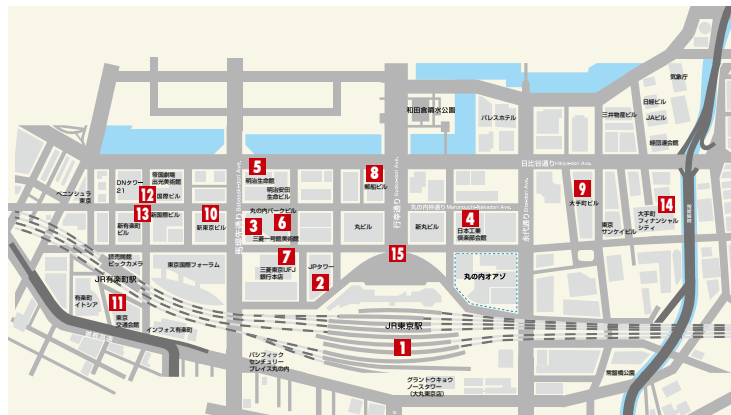
写真はイメージ

■東京ミチテラス 2012

期間：2012年12月21日（金）～12月28日（金）

会場：丸の内エリア（東京駅前広場、行幸通り）

主催：東京ミチテラス 2012 実行委員会（東京都、千代田区、東京商工会議所、東日本旅客鉄道株式会社、三菱地所株式会社、株式会社東京国際フォーラム、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、株式会社ジェイアール東日本企画）



今年、東京駅の復元工事と東京中央郵便局の保存工事がほぼ同時に完了しました。私は東京中央郵便局の調査と保存設計に携わりましたが、その過程で「もしかして東京中央郵便局は東京駅を意識して設計されたのではないか」と悟りました。大丸有の新しい建物は、常に歴史を重ねた周りの街並みを意識して創られる。その繰り返しがこの街の歴史だと思います。皆さん、おや？と気づいたことをテーマにこの街を歩いてみてください。面白い発見が無限に広がりますよ。（号の案内人・野村和宣）



発行：一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1

大手町ビル635区

TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/>

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら下記までお寄せください。
machizukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp

丸の内エリアライブカメラ

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/live/index.html>

「大丸有
（だいまるゆう）」とは、
大手町の「大」
丸の内の「丸」
有楽町の「有」
からとった造語です。